

令和2年度

小・義務教育・特別支援学校

若年教員研修1年目 第3回・4回

教科等の学習指導Ⅱ（家庭科） 教科等の学習評価と改善Ⅱ（家庭科）

配布資料



福岡県教育センター

0 1 共創しよう!
教育の未来

Produce from 0 / Fukuoka Prefectural Education Center

1 はじめに

2 学習指導のデザイン

(1) 家庭科教育の現状

【小学生が好きな教科】

	2001		2006		2015	
1位	図画工作	83.6	体育	84.9	家庭	90.2
2位	体育	81.6	家庭	84.3	図画工作	86.5
3位	家庭	79.6	図画工作	79.1	体育	83.1
4位	音楽	69.7	理科	68.5	外国語(英語)活動	77.6
5位	理科	68.2	総合的な学習の時間	67.0	理科	75.2
6位	総合的な学習の時間	61.0	音楽	66.8	総合的な学習の時間	74.4
7位	算数	55.6	算数	62.8	音楽	71.5
8位	国語	54.7	国語	53.4	算数	68.4
9位	社会	49.6	社会	48.0	国語	58.5
10位					社会	55.6

[ベネッセ教育総合研究所「第5回学習基本調査 報告書 2015」より]

【家庭科の授業の実態】

針と糸を使って、小物をつくる。

ごはんを炊いたり、みそ汁をつくったりする。

買い物の仕方や物の選び方を考える。

洗濯をしたり、洗濯の仕方を考えたりする。

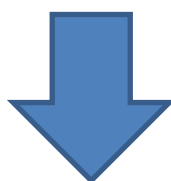
- 1 -

【家庭科教員の授業の工夫】

	全教科平均	家庭科
教科書にあることを丁寧に教える	33.8	21.0
教科書などの課題に加え、教員が独自に工夫した教材や実技の課題を扱う授業	50.3	59.0
観察や実験を行う、現場で実物に触れるなど、体験を重視する授業	19.9	39.0
専門家や地域の人を招いて、話を聞いたり討論したりする授業	2.1	3.0
児童生徒がグループで話し合い、考えなどをまとめる授業	25.9	22.0
児童生徒が、自分で課題を選択し、調べたことや考えたことに基づいて、レポートを書いたり発表したりする授業	12.8	18.0
本時のねらいや目標を授業の導入部などでしっかり明示する授業	45.0	43.0
小テストやワークシートなどにより、学期末などだけでなく、日常的に児童生徒に学習状況の表を知らせる授業	29.2	22.0
振り返りシートなどにより児童生徒自らに学習状況を評価させる授業	12.8	20.0
繰り返し教えたり、確認のためのドリルの時間を十分にとったりする授業	23.4	16.0
習熟の程度やテーマなどによって分けられた少人数で行う授業	7.2	10.0
コンピュータやプロジェクト、電子黒板などを活用する授業	5.2	7.0
競争を適度に促す授業	4.7	0.0
宿題を定期的に出す授業	8.9	5.0
その他	3.4	5.0

〔平成21年度文部科学省委嘱調査報告書「学習指導と学習評価に関する意識調査報告書」より作成〕

子供たちは自分から何かに働きかけたり、いつもとは違った環境で学んだり、友達と話し合ったり調べたりする授業が好きなことがわかります。また、どのような家庭科の授業をしているかを尋ねた調査結果によると、半数の項目で全教科の平均を上回っており、先生方は多彩な方法で授業を行っていることがわかります。



しかし

<実状>



- ・授業の時は分かっていたのに
- ・テストでは正解していたのに

知識と技能が
つながっていない!

【家庭科教育とは】

- 家庭生活や社会生活などの実生活に生かさせてこそ意味のある教科
- 家族や家庭の生活に関心を持ち、家族や地域など身近な人々との豊かな生活を目指して実践する能力や態度を育てる教科

実践的・体験的な学習

知識と技能が
つながっていなければ
ならない！

生活を工夫し、創造する能力と
実践的な態度を育てる

- ・ 前述のように、様々な工夫を凝らした授業を行い、ペーパーテストでは、子どもたちの理解がうかがえるのに、実状のように子供たちに技能が身に付かない（実生活に生かせる知識となっていない）のはなぜなのでしょう？
- ・ 先生自身が知識と技能のつながりを意識した授業をしていますか？
- ・ 目的を持った活動をしていますか？

知識と技能のつながりを意識して



小学校の単元のつながりだけでなく、「小学校」の学びが「中学校」のどこにつながっているのかも明確にする必要がある！

家庭科で育てたい子供の姿が明確になっていますか？
(目指す子供の姿)

目指す姿に近付けるための手立てをとっていますか？

- ① 育成する**資質・能力**の明確化
(基礎的・基本的な知識及び技能)
- ② 5年間を見通した**指導計画**の作成
- ③ 教材・教具の開発
(実践的・体験的な活動の充実)
- ④ 授業研究
(カリキュラム・マネジメントなど)

(1) 学習指導要領の改訂の趣旨や要点

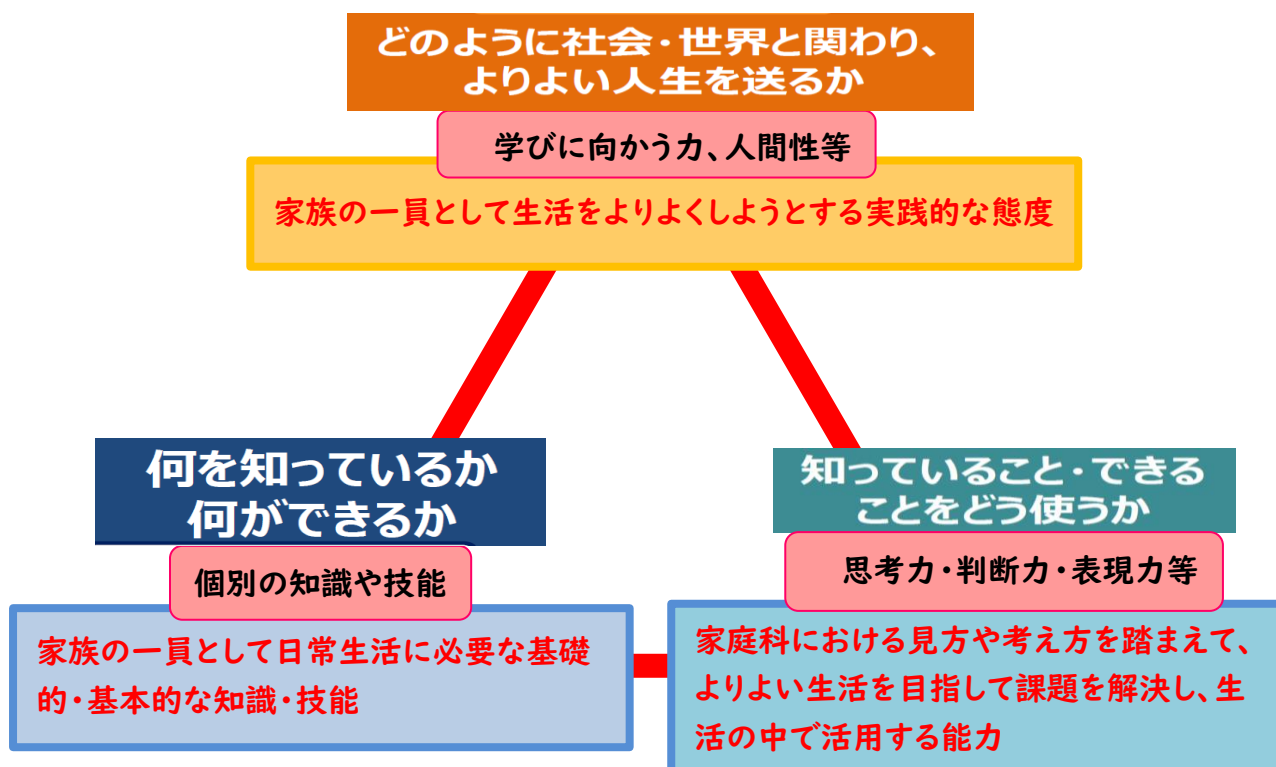
【小学校】家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活をよりよくしようとする工夫する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- ① 家族や家庭、衣食住、消費や環境等について、日常生活に必要な基礎的なを図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。
- ② 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ③ 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度を養う。

生活をよりよくしようとする工夫する資質・能力の育成

【育成すべき資質・能力】



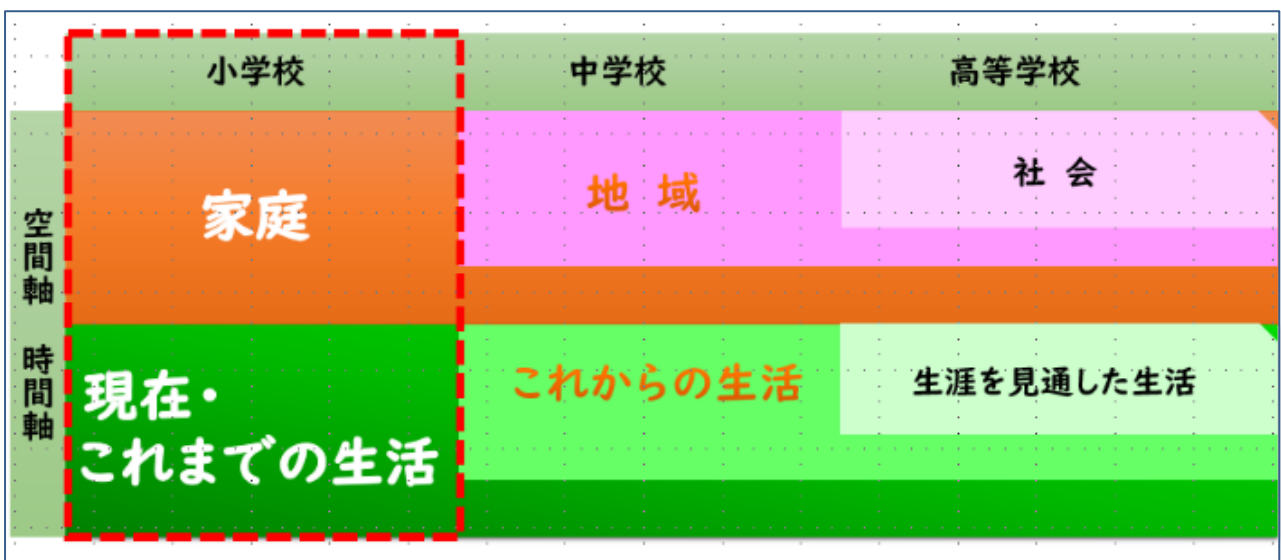
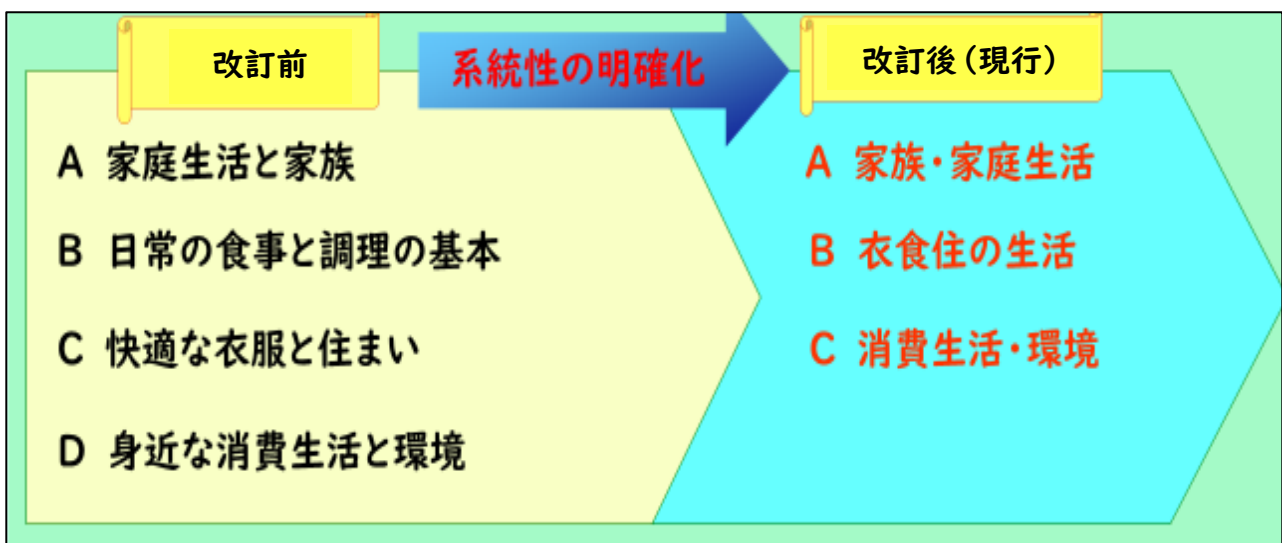
【内容の系統性の明確化】

① 目標の示し方

育成を目指す資質・能力を、三つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」により明確にし、全体に関わる目標を柱書として示す。

② 家庭科における「生活の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫することとした。



特に小・中学校の家庭科5年間を系統だてた授業を行うために、内容構成を同じ文言でA～Cの3領域に分類した。また、空間軸・時間軸の広がりも意識できるよう家族→地域→社会、現在→これからの生活→生涯 とはっきりと示された。

小学校

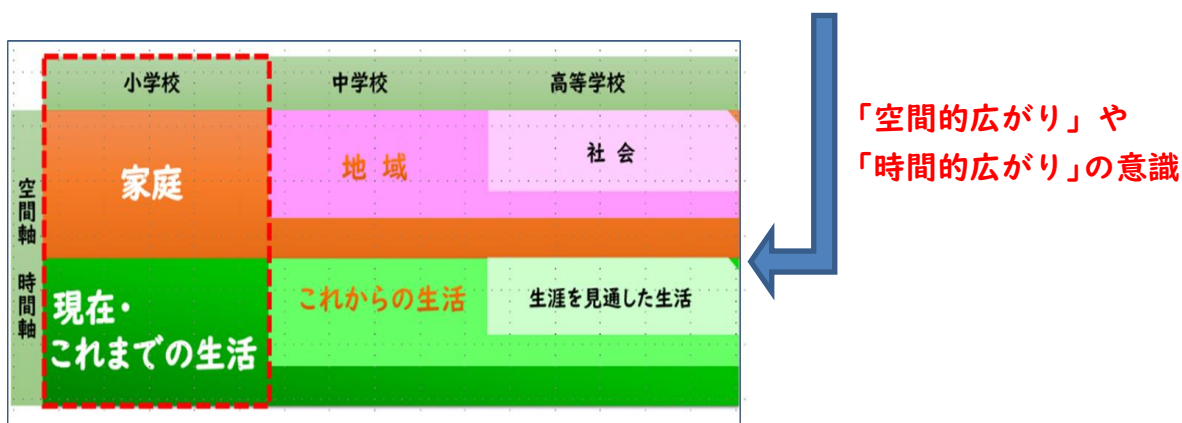
日常生活の中から問題を見出して、課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど課題を解決する力

中学校

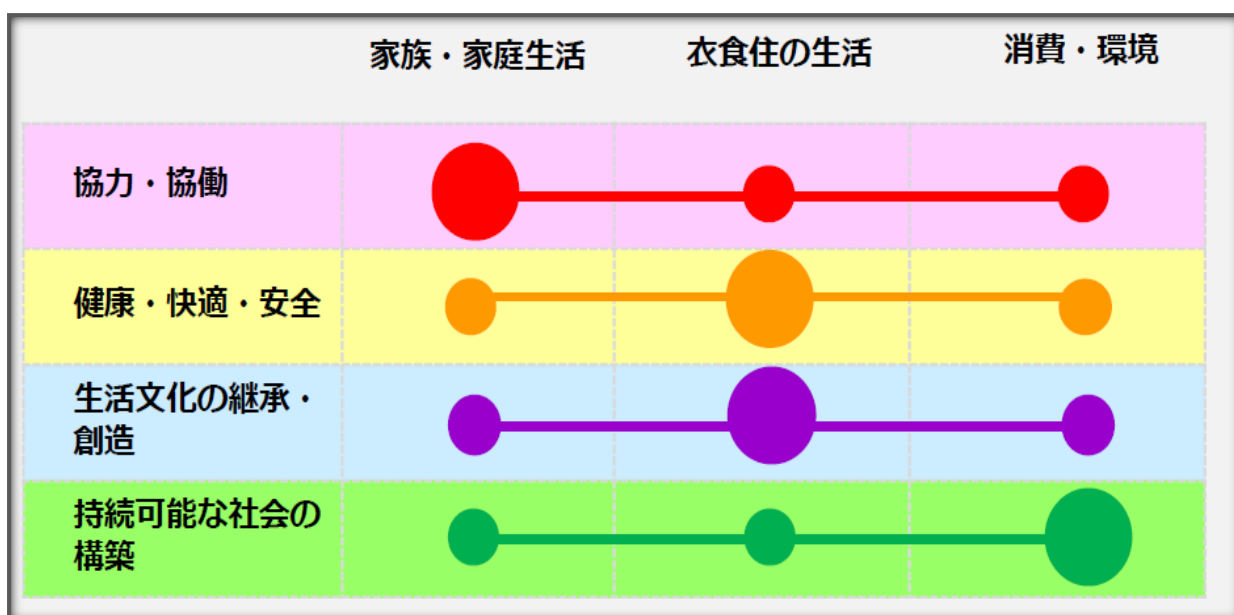
家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力

高等学校

家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力



【家庭科における見方・考え方】



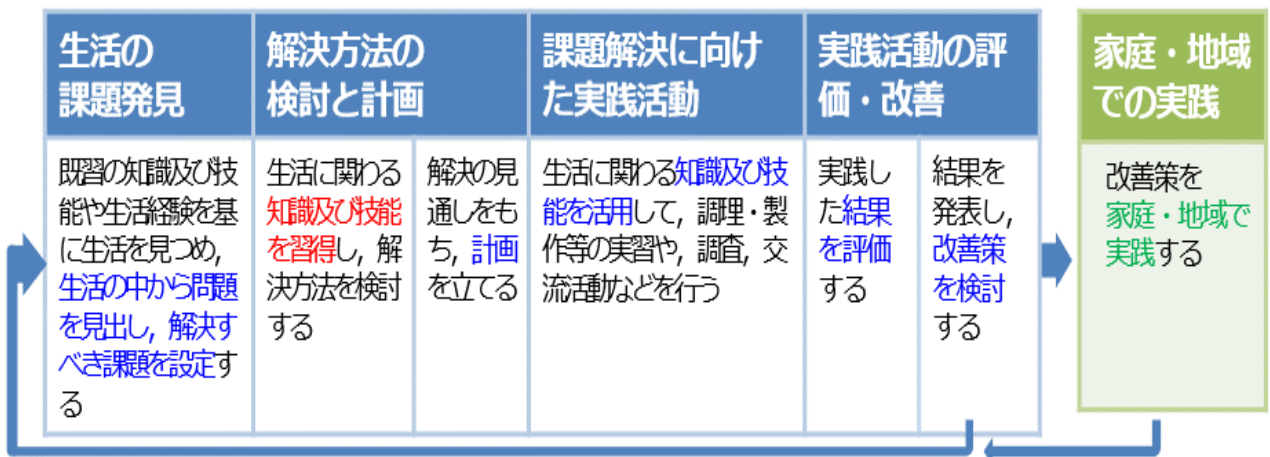
【生活の課題を解決する力】

実生活と関連を図った問題解決的な学習を段階的・効果的に取り入れる。

問題解決的な学習の学習過程を一層重視

- * 既習の知識及び技能や生活経験を基に日常生活を見つめ、問題を見いだし、**解決すべき課題を設定する力**
- * 生活課題について自分の生活経験と関連付け、**様々な解決方法を考える力**
- * 実習や観察、実験、調査、交流活動の結果等について、考察したり、考察したことの根拠や理由を明確にしたりして**分かりやすく表現する力**
- * 他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりして計画・実践等について**評価・改善する力** 等

【実生活と関連を図った問題解決的な学習の流れ】



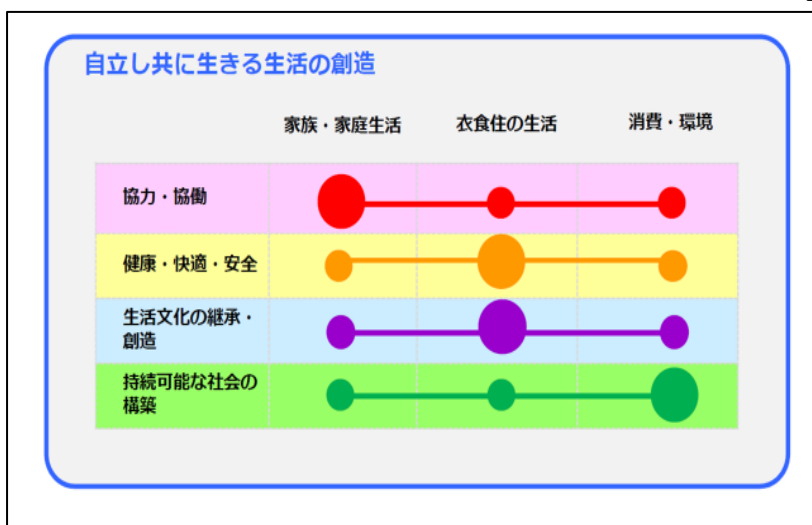
- ①解決すべき課題を設定する力
- ②様々な課題解決方法を考える力
- ③分かりやすく表現する力
- ④評価・改善する力

日常生活の中から課題を見つけ（生活の課題発見）、生活経験や既習の知識を活用し、より良い解決方法を考え（解決方法の検討と計画）、実行し（課題解決に向けた実践活動）、過程や結果を振り返り、次につなげるための改善をしたり（実践活動の評価・改善）、実生活に生かしていける（家庭・地域での実践）ようにしたりする。

【題材計画の立て方・授業づくりのポイント】

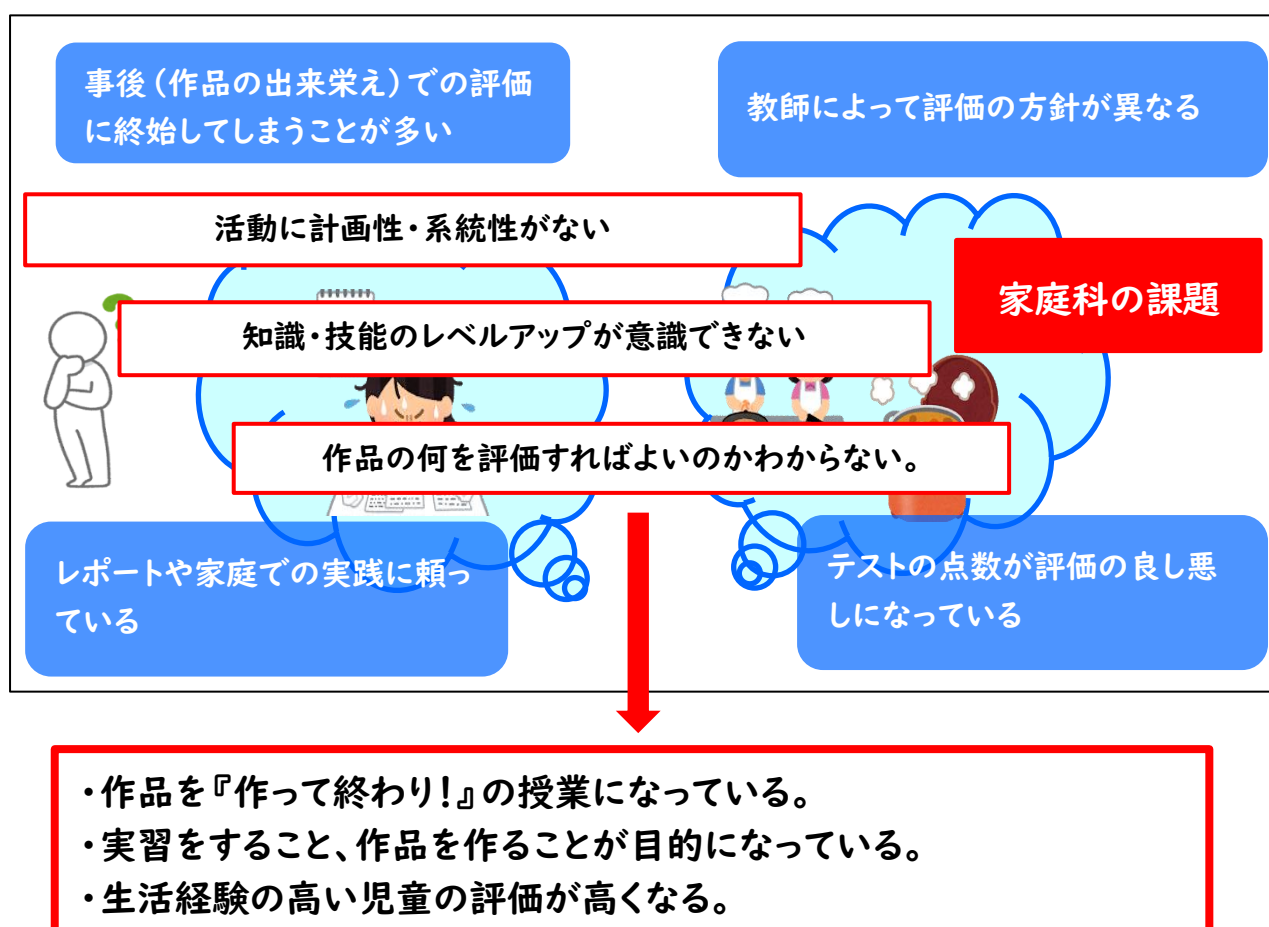
- ①実態把握
- ②題材を組む（カリマネの視点）
- ③総時間数の設定
- ④題材の設定
- ⑤題材の評価基準を決める
- ⑥授業（一単位時間）設計をする

見方・考え方を意識して



3 評価を生かした授業改善

(1) 学習評価について指摘されている課題



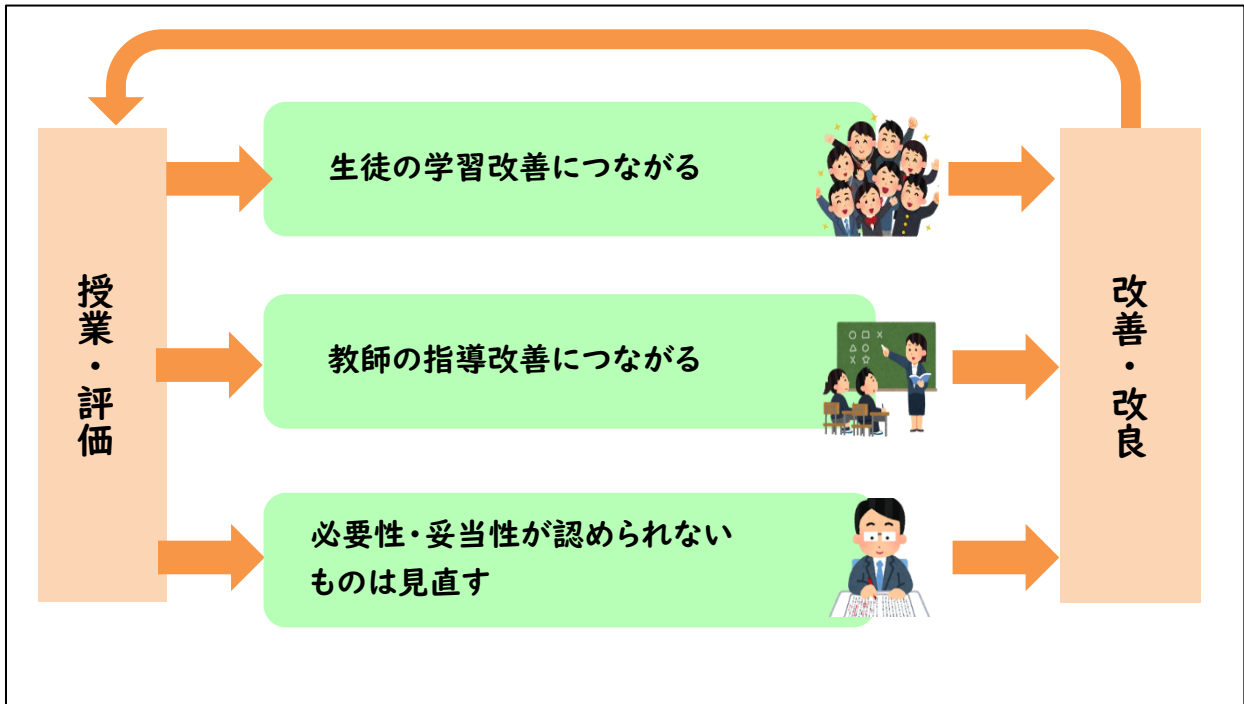
評価は指導と表裏一体のものである。すなわち目標が明確であれば、ぶれることはない。学習指導要領には内容項目としてアとイが示されており、アは「知識及び技能」イは「思考力・判断力・表現力等」に関してとされている。

教師が「線が曲がってはダメですよ」「ここここは4mmで縫いなさい」などと言ったのでは、子供はなぜそうしなければならないのか、何が目標なのか等意味を理解していない可能性がある。そのため、ミシンで直線縫いができる。目的に応じた縫い方が選べる。という目標でそれを子供たちにも示しておけば、子供たちも評価に納得ができることになる。

学習指導要領の内容項目のイは自分の生活をよりよいものにするために、問題解決に取り組む内容である。イの評価にあたっては、パフォーマンス評価ではなく活動全体を見通してのプロセスの評価を重視し、総合的に評価していく必要がある。(前出P7参照)

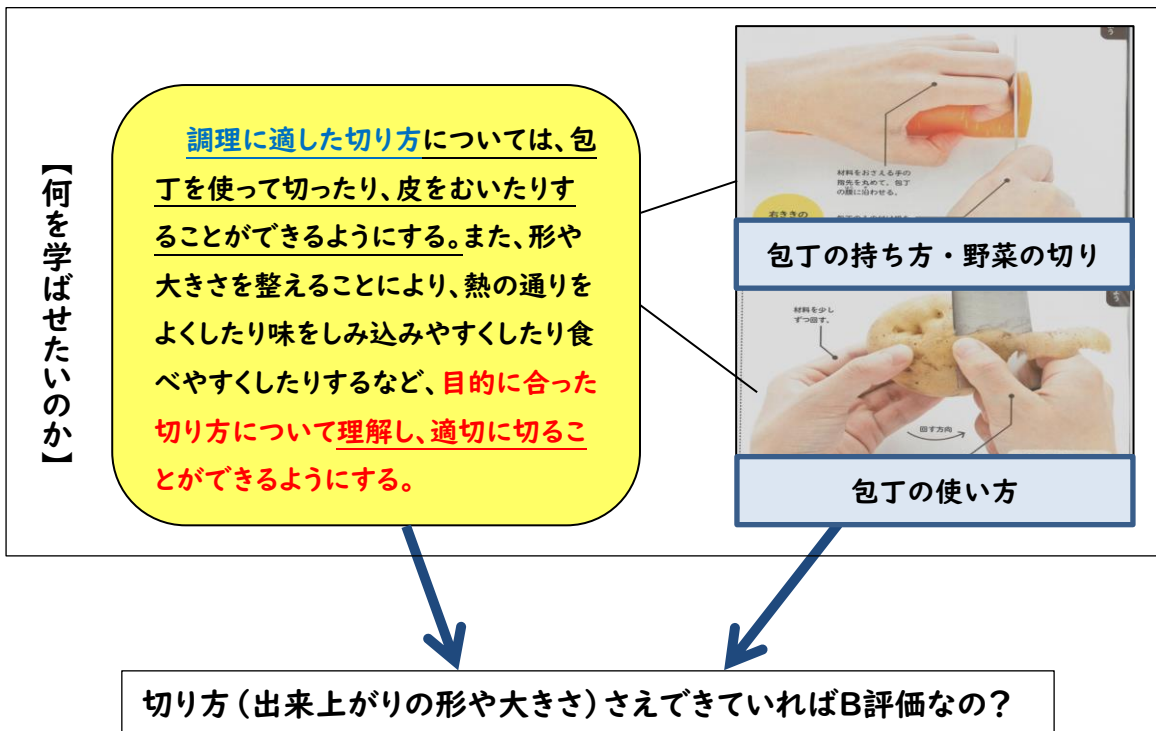
(2) 学習評価と改善

先生方の中には、学習評価＝成績（通知表）と考えている方がおられるのではないのでしょうか。目標に沿って系統的な授業を計画し、児童の学習内容を評価することや、自分自身の授業を改善していくことは表裏一体です。



授業の前に評価をどのような方法（方針）で行うのかを児童にも示し、共有しておくことが不可欠です。そうすることで、児童自身が身に付けるべき資質・能力の具体的なイメージ（目指すべき姿）や自分の現状を把握することができ、自らの学習に見通しを持つことができるのです。

そのためには、この学習で子供たちに「何を学ばせたいのか」を教師自身がはっきりと持っておく必要があります。



例えば、

にんじんのいちよう切りの評価について、完成したもの（見た目）は同じだけど…



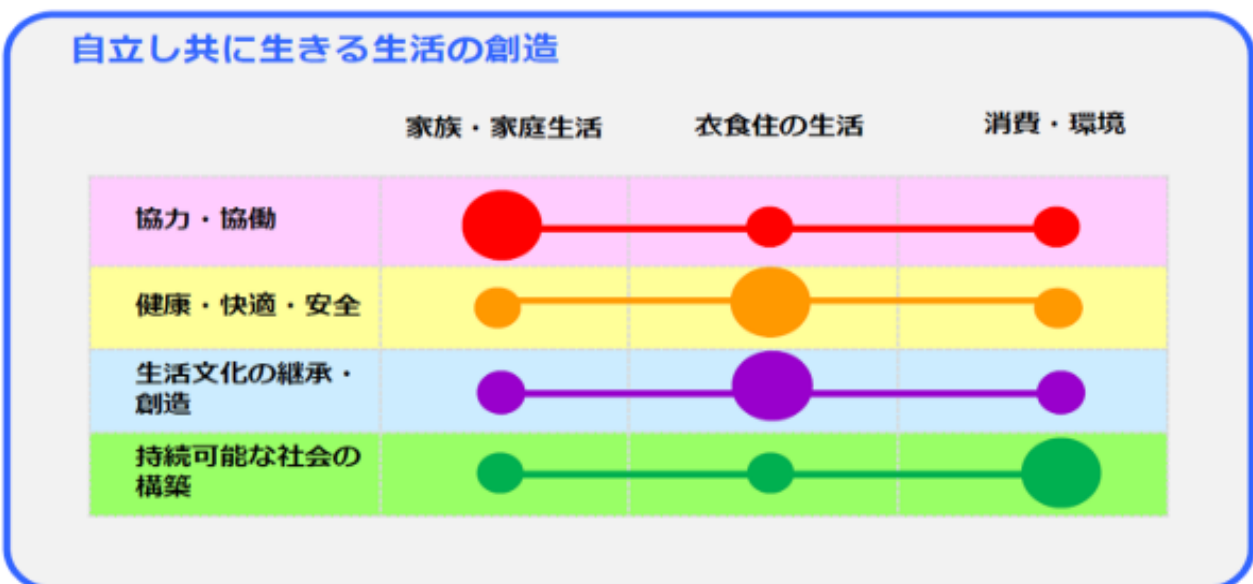
ア：人参を薄く輪切りにしたあと、十字に切っていちよう型にする。✖

イ：人参を縦長に四等分にしたあと、薄切りにする。○

生活の営みに係る見方・考え方を働かせつつ…

健康・快適・安全

◆家庭科における見方考え方



学習評価は、「教師の授業改善につながるもの」だけでなく、「児童の学習改善につながるもの」である。そのためには、「成果の把握」だけでなく、「支援」を大切にしなければならない。

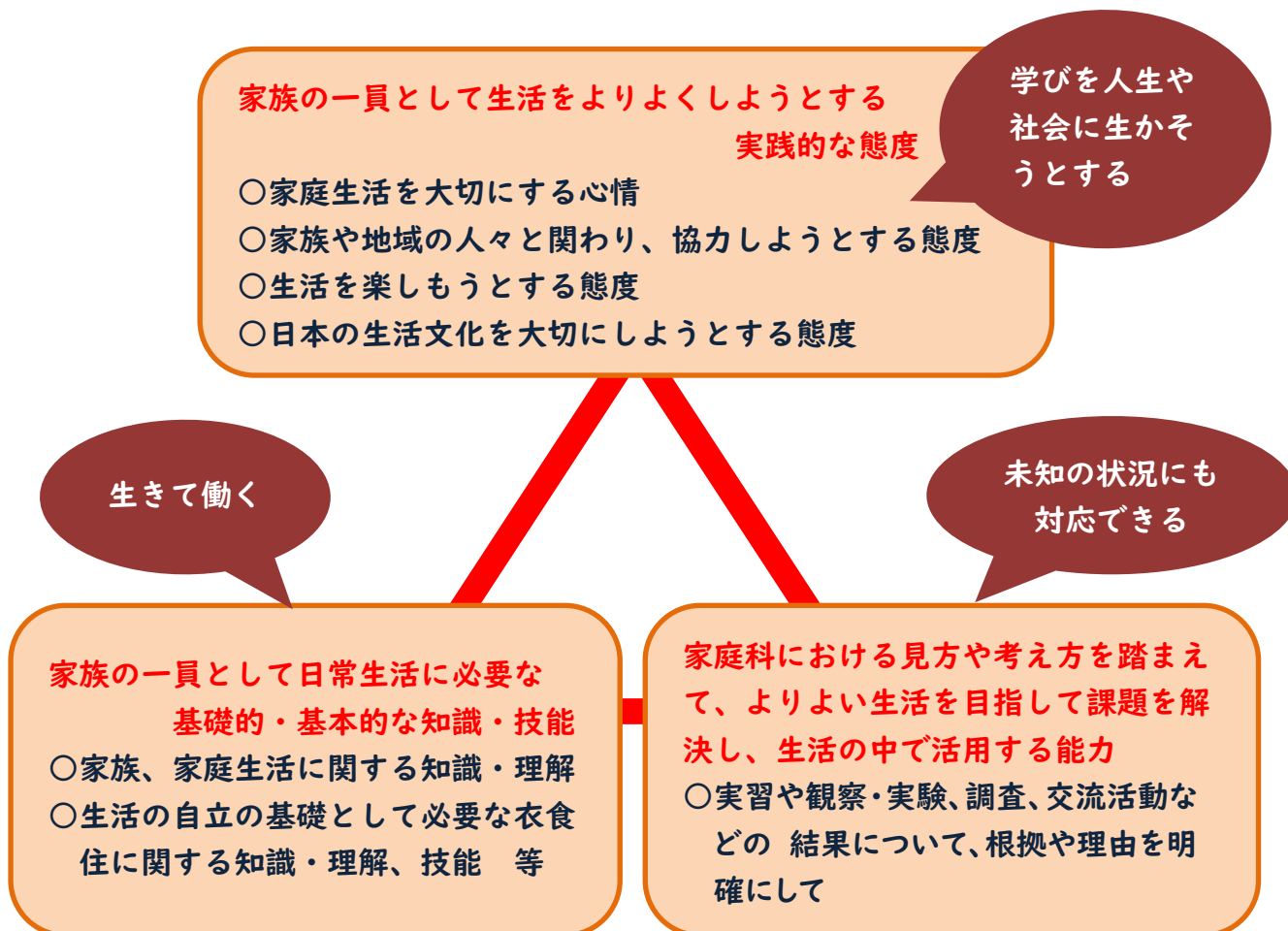


〔文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター〕

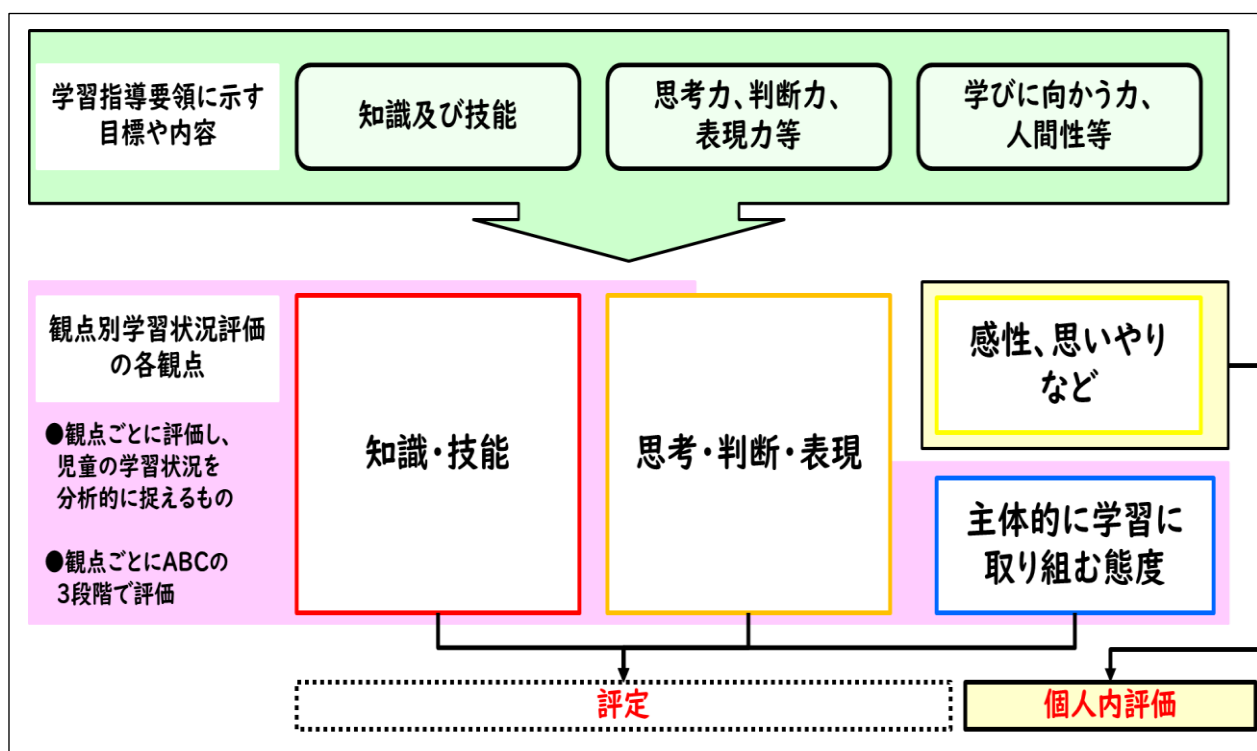
カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価



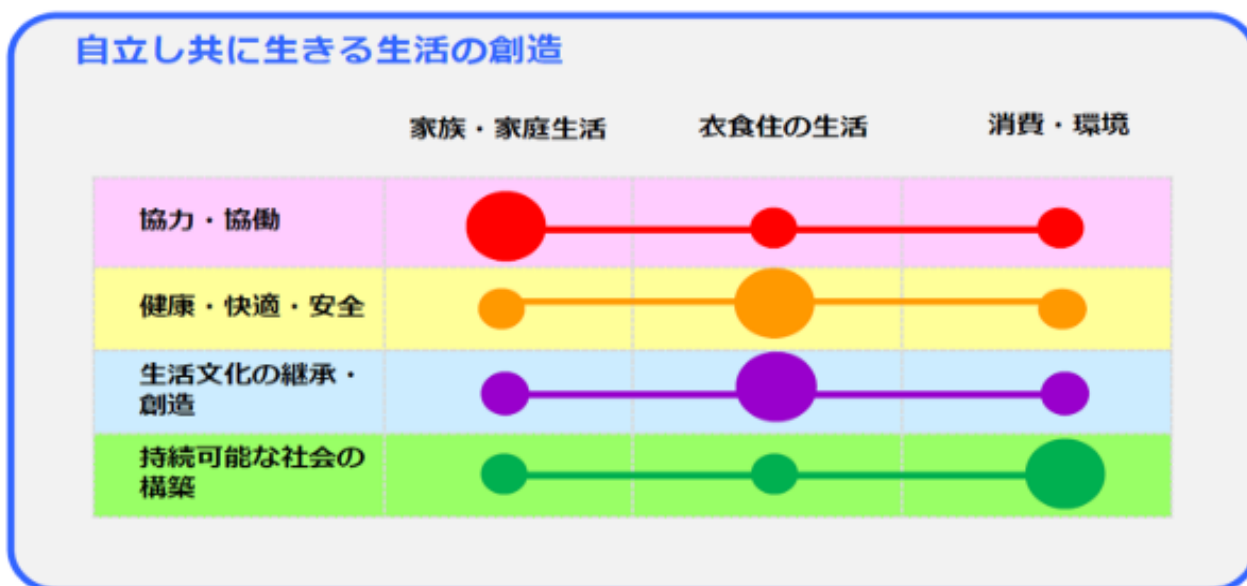
(3) 育成すべき資質・能力 (確認)



(4) 評価の基本構造



(5) 題材計画の見直し・改善



例えば、内容のまとめりごとの評価規準例（調理の基礎）

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・調理に必要な材料の分量や手順がわかり、調理計画について理解している。 ・調理に必要な食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切に使用できる。 ・材料に応じた洗い方、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解しているとともに、適切にできる。 ・材料に適したゆで方、いため方を理解しているとともに、適切にできる。 ・伝統的な日常食である米飯及び味噌汁の調理の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美味しく食べるために調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践や評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力をつけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員として、生活をよりよくしようと、調理の基礎について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

・家庭科における見方・考え方は、どこに反映されていますか？